

2018年度 東北大学 大学教員準備プログラム Tohoku U. PFFP (院生・ポスドク対象)

1. 目的

東北大学 大学教員準備プログラム(Tohoku University Preparing Future Faculty Program: Tohoku U. PFFP)は、大学教員を目指す全国の大学院博士課程後期の学生や、ポストドクトラルフェロー、専門研究員等を対象に、大学教員に求められる能力を実践的に学ぶ機会の提供を目的としています。

大学教員の職務は研究、教育、管理、社会貢献など多岐に渡っており、新任の大学教員は戸惑いや大きなストレスを感じます。円滑に初期キャリアを積んでいくことができるように、大学教員に必要な能力や知識の獲得を通じて、大学教授職への準備を図り、プログラムでの経験を内省することで、自己省察力を身につけます。

本プログラムは、新任教員を対象とした東北大学 新任教員プログラム (Tohoku U. NFP) と合同で実施します。

2. 達成目標

参加者は次のことが出来るようになることを目指します。

- 比較の視点を持ち多様なアプローチで高等教育全体を効果的に省察できるようになること
- 大学教員の役割、仕事を理解し、展望を持ってキャリア構築を設計できること
- 教育活動に関する基礎的知識を身につけ、自分なりの言葉で教育観を語れるようになること
- 異分野の研究や教育文化を知ること
- 異分野、新任教員、シニア教員など多様な教員との協働を経験すること

3. 内容

目標を達成するために、参加者は次の活動に取り組みます。

- 仕事を理解する (セミナー)
- 基礎知識を得る (セミナー、ワークショップ)
- 自己省察力を養う (リフレクティブ・ジャーナル、課題レポート、プレゼンテーション)
- 比較の目を育てる (他の参加者との交流、他大学訪問調査)
- 実践力を磨く (ワークショップ、マイクロティーチング)
- 同僚とつながる (他の参加者との交流、プログラムOB/OG との交流)
- 先達から学ぶ (授業参観・先達コンサルテーション)

具体的な活動は以下の通りです。

(A) PFFP ワークショップ(スタートアップ研修)

PFFP へようこそ
<p>概要</p> <p>2018年度東北大学 大学教員準備プログラム(Tohoku U. PFFP)の参加者の顔合わせです。自己紹介, プログラムの説明, 大学教員の仕事と専門性(レクチャー), 比較の目を育てる(ワークショップ), 事務手続き等を行います。参加者はこれらの活動を通じて, お互いのことを知り, これからの活動にむけての準備を始めます。</p>
<p>内容</p> <ul style="list-style-type: none">● PFFP の目的に関する講義● 大学教員の役割と大学教育に関するレクチャー● 比較の目を育てるワークショップ● 課題とリフレクティブ・ジャーナルの説明 <p>日程 2018年7月7日(土) 10:00~17:30</p>

(B) 基礎知識を得る

授業づくり:準備と運営
<p>概要</p> <p>学習者が集中し, 十分に理解できるような授業をつくるためには何に留意し, どのような準備をして, いかに関業を展開すると良いのでしょうか。一回の講義形式の授業を念頭において学びます。</p>
<p>内容</p> <ul style="list-style-type: none">● 理解の認知プロセス● 知識の活性化● メンタルモデルの構築● 気持ちのコントロール <p>日程 2018年9月14日(金)13:30~15:30</p>

* 受講が難しい場合, ISTUを通じて配信するので, 動画を視聴してください。

大学生のクリティカルシンキングの育成(e-learning)
<p>概要</p> <p>クリティカルシンキングは, 大きく分けると論理的に考えることとリフレクション(省察)の2つがあります。事象を多面的にとらえ, 論理的・科学的に正しい情報に基づいて考え, 自分の行動について省察することで, 次にどうしたらいいかという建設的な思考へと結びつきます。こうした手順を踏んだ思考力を学生に身につけさせるにはどうすればいいのかについて考えます。</p>
<p>内容</p> <ul style="list-style-type: none">● クリティカルシンキングと高次リテラシー● クリティカルシンキングの構成要素● クリティカルシンキングの教育と評価 <p>8月~9月中旬にISTU上で視聴し, リフレクティブ・ジャーナルを執筆してもらいます</p>

学生理解と学生発達(e-learning)
<p>概要</p> <p>学生は大学生生活を通じて様々な側面で発達していきますが、このことに関連して近年の高等教育では汎用的能力や学習成果といった問題に関心が高まっています。このセミナーでは、最近の学生発達に関する研究や実践の動向について学ぶとともに、学生発達の観点から現在の大学教育における課題について考えていきます。</p>
<p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 汎用的能力と学習成果 ● 発達のニーズと大学教育 ● 学習成果の可視化 <p>8月～9月中旬にISTU上で視聴し、リフレクティブ・ジャーナルを執筆してもらいます</p>

(C) 実践力を磨く

大学の授業を設計する:授業デザインとシラバス作成
<p>概要</p> <p>あなたは何を基準にして、どのような手順で授業を設計していますか？本ワークショップでは大学の授業における目標、活動、評価や授業設計について、シラバス作成を通して考えます。参加者は事前にシラバスを作成し、提出します。</p>
<p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「授業の全体を構想しシラバスに表現する」ワークショップ <p>日程 2018年8月28日(火)13:30～16:30</p>

* 受講が難しい場合、ISTUを通じて配信するので、動画を視聴してください。

コーチング技能を活用した学生指導
<p>概要</p> <p>大学教員の仕事として、研究や授業のほかにも、後進を育てる学生・院生指導も重要です。本ワークショップでは、コーチング技術の開発に取り組んできた医工学研究科の出江紳一先生を迎え、学生にヒントや挑戦を与えたり、動機づけ、励まし、対話を行う活動を実践的に学びます。</p>
<p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● コーチング技術に関する講義 ● ワークショップ <p>日程 2018年12月4日(火) 13:30～16:40</p>

* 受講が難しい場合、講義の部分はISTUを通じて配信するので、動画を視聴してください。ただし、ワークショップの部分は配信されません。

自分の授業を見つめる(マイクロティーチング)
<p>概要</p> <p>実践力を身につけるには、何事にも経験とそのふり返りが必要です。参加者は先に実施されたワークショップ「大学の授業を設計する: 授業デザインとシラバス作成」で作成したシラバスから授業 1 回分を選び、90 分の授業計画をたて、その内の 10 分程度を実際に行います(これをマイクロティーチングといいます)。他の参加者からのコメントをもとに、自分の授業計画をふり返ります。</p>
<p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● マイクロティーチングの実践と参加者同士のディスカッション ● セルフリフレクションの実践 <p>日程 2019 年 2 月 予定</p>

(D) 先達から学ぶ

授業参観: 授業を見る聞く学ぶ
<p>概要</p> <p>教育経験の豊富な教員の授業を参観し、自分の教育活動を考えるヒントを得ます。授業終了後の検討会では、授業内の教育活動や授業前の準備などについて授業実践者より学びます。</p>
<p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 実授業の参観(3 件) ● 授業者とのディスカッション, 質疑応答 <p>日程 2018 年 7 月~2019 年 1 月</p>

先達コンサルテーション
<p>概要</p> <p>プログラムへの参加を通して生まれた疑問や、自らの課題について、先達教員との個人面談を実施します。教育はもちろん、研究や大学運営、今後のキャリアなど、参加者の関心に応じてアドバイスをもらえます</p>
<p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 教育, 研究, 大学運営等, 自身の関心に基づき先達教員からアドバイスを <p>日程 2018 年 11 月~2019 年 1 月</p>

(E) 比較の目を育てる

国内他大学訪問調査(オプション)
<p>概要</p> <p>自身の置かれている環境や、その特徴を理解するためには、多様な具体例を知り、それと相対化しながら理解を深めることが重要です。本プログラムでは、国内他大学の授業参観、教員とのディスカッションにより、多様な大学の在り方などについて理解を深める機会を提供しています。参加者は希望調査のうえ、参加人数を考慮し決定します。なお、希望者が少ない場合には訪問調査は実施されない場合があります。</p>
<p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 授業参観 ● ディスカッション ● フィールドワーク <p>日程 国内:2018 年 10 月下旬~11 月上旬 1 泊 2 日:東京近辺</p>

(F) 自己省察力を養う

リフレクティブ・ジャーナルの執筆
概要 プログラムで経験したことを通して、大学教員という仕事や大学教育に関する考え方がどのように発展していったのかをリフレクティブ・ジャーナルに記録し、自分なりの教育観を構築します。
内容 <ul style="list-style-type: none">● 各セミナー、ワークショップ受講後に実践をふり返って記録する
日程 プログラム実施期間中随時

成果報告会
概要 2018年度 Tohoku U. NFP の成果報告を行います。プログラムを通じて学んだこと・考えたことなどを共有し、大学教員職や教育に関する理解を更に深めることを目的としています。最後に、東北大学 高度教養教育・学生支援機構より修了証の授与を行います。
内容 <ul style="list-style-type: none">● プログラムでの経験に関する共有、ディスカッション● 先達教員からのコメント● 修了証授与● 打ち上げ
日程 2019年3月中～下旬予定

4. 成果報告

本プログラムでは、課題レポートの提出と参加報告会での発表により、プログラムの成果報告を求めます。

【課題レポート】

「学生にとって大学でのよい学習経験とはどのようなものだと考えますか。また、そういった学習経験を実現するために、大学や大学教員は何をするべきだと考えますか」

研修で取り上げた内容や作成したリフレクティブ・ジャーナルを適宜参照しながら 4,000 字程度でまとめてください。

提出期限：2019年3月1日(金)